

ッシュマンスリー (2022年6月号)

2022/5/31

今月の相場見通し

※各マーケットコメントは5月31日(火)9:00現在 ※休日の実績は前営業日

			WILL SOM STATE	
		5月30日現在 (矢印は4月末比)	6月の予想	
USD	ドル・円 (円)	127.33	→ 122.00 ~ 13	32.00
030	物価か景気か、FRBの) スタンス見極め ⁻	で方向感の出づらい時間詩	Ė
	ユーロ・ドル (ドル)	1.075	1.04 ~	1.14
EUR	ユーロ・円 (円)	→ 136.86	133.00 ~ 14	13.00
	ECBの早期利上げ、マ	アイナス金利脱却が	が急速にコンセンサス化	••••••
	ポンド・ドル (ドル)	1.262	1.24 ~	1.30
GBP	ポンド・円 (円)	160.72	156.00 ~ 10	56.00
	BOEのインフレ退治優	憂先姿勢でポンド(は堅調に推移	
AUD	豪ドル・円 (円)	91.45	№ 89.00 ~ 9	94.00
NZD	NZドル・円 (円)	83.26	№ 81.00 ~ 8	35.00
INZU	米中景気懸念後退でス	†セアニア通貨は	対円で堅調に推移	
	日経平均 (円)	7 27,369	25,000 ~ 28	3,000
株式	海外景気減速懸念が高	。 高まるなか、中国の	の景気対策動向を見極め	
相場	NYダウ (ドル)	33,213	30,000 ~ 34	1,000
	FRBの金融引き締めか	速と景気減速懸念	。 念が株価の上値を押さえる	3
	日本 (%)	1 0.237	0.15 ~	0.25
長期	日銀指値オペと海外会	計上昇一服で金	- 利上昇余地は限定的	
金利	米国 (%)	2.738	2.30 ~	2.90
	市場の焦点はインフレ	- ル加速懸念から景勢	, 気減速懸念へ	

◆ 今月の注目ポイント

FRB0.5%利上げ、ECBは7月0.25%の利上げ予告へ

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	0	【米国景気動向】足元の金融市場では先行きの景気減速・後退を警戒する向きもみられ、米国経済指標の動向が従来以上に重要となる。 景気の変調はまず景況感に現れやすく、月初のISM製造業景況指数 に要注目。その後も各指標の動向を見極めつつ、マーケットは次のテーマを探る展開と想定される。
金融政策	0	【FRB・ECB・日銀】まず6/9のECB理事会は先日ラガルド総裁名でのアナウンスがあった通り、7月の資産買入終了と7月会合での利上げ開始が予告される見通し。6/14-15のFOMCでは0.5%の利上げが既に予告されているが、同時に発表されるドットチャート(政策委員の金利見通し)の内容が注目される。一方で、日銀は当面政策の維持が見込まれ6/16-17の金融政策決定会合は無風通過とみられる。
政治	0	【ロシアリスク】ロシアを巡る地政学リスクに引き続き警戒。NY原油価格は足元じわじわと上昇する中、更なる供給不安が生じた場合にエネルギー価格上昇は一段の円安圧力となりうる。

▶ アジア通貨見通し

	人民元・円	1	18.80 \sim	19.70	ルピー・円	1	1.62 ~	1.66
	バーツ・円	M	3.50 \sim	3.85	ウォン・円	\Rightarrow	9.80 ~	10.55
ı	ルピア・円	A	0.850 ~	0.900		-		

今月の重要日程

1日(水)	米	5月ISM製造業	1	15日(水)	中	5月生産・小売・投資
3日 (金)	米	5月雇用統計		15日 (水)	米	5月小売売上高
3日 (金)	米	5月ISM非製造業	П	15日 (水)	米	FOMC〈結果発表〉
7日 (火)	豪	RBA理事会	П	16日 (木)	英	BOE金融政策委員会
9日 (木)	欧	ECB理事会〈結果発表〉		17日 (金)	日	日銀金融政策決定会合
10日(金)	米	5月CPI		24日 (金)	日	5月CPI

◎注意事項

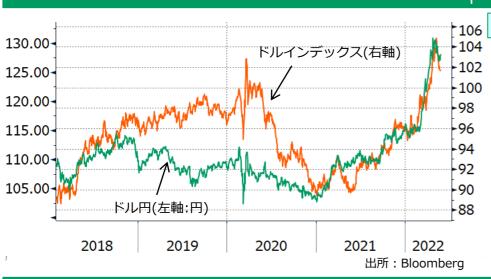
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、<u>弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。</u>また、こ こに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でな されるようお願い致します。



ラッシュマンスリー (2022年6月号)

為替(ドル・ユーロ) ◆ 今月の相場見通し①



ル

米ドル円

ドル円は横ばい

122.00 – 132.00 H

物価か景気か、FRBのスタンス見極めで方向感の出づらい時間帯

5月のドル円相場は月初の130円台から一時126円台半ばまで比較的大きく調整する場面が あった。経済指標の下振れや株価の下落を受け乱高下する日が目立ち、年初来の上昇トレンド に変化の兆しが見られる。

5月に発表された4月分の米国CPIは市場予想こそ上回ったものの、8か月ぶりに上昇率が前年 比で鈍化しており、インフレ動向のピークアウトが意識される一方、各連銀調査の景況感指数の下 振れが顕著となっており、今後の景気減速懸念が急速に高まっている。

米国の物価はピークアウトしつつも当面は高止まりする可能性が高く、今後の経済指標次第では FRBがインフレと景気減速に対してどちらを優先的に対応するかについてコンセンサスが分かれる展 開となりそうだ。インフレのピークアウトが確信できる前にタカ派スタンスを崩せば再び期待インフレ率 の上昇を招く惧れがあるため、当面は引き締め方針に変更はなく、ドル円は横ばい圏での推移とみ ている。一方、今月のFOMC後に公表されるドットチャートでは2022年の利上げ幅及び、利上げ 到達点、到達時期等、FRBのスタンスを計るうえで示唆に富む内容となる可能性が高い。想定よ りもハト派的と捉えられた場合は急速にドル安方向への巻き戻しが発生する可能性も。

ユーロ

ユーロ円



ユーロドル ユーロドルは上昇

ユーロ円は上昇

1.04- 1.14ドル

133.00 – **143.00**円

-130 ECBの早期利上げ、マイナス金利脱却が急速にコンセンサス化

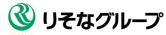
5月のEUR相場は対USD、対JPYともに底堅い展開となった。ロシアによるウクライナ侵攻と対ロ -125 経済制裁の本格化以降、経済的なつながりの強い欧州経済への影響に対する懸念からEURは 対USDで軟調な展開が続いてきた。一方、足元ではFRBの引き締め強化を受けた米国景気減 速懸念が台頭するなか、ユーロ圏でも物価上昇圧力が強まっており、ECBはタカ派スタンスを強め ている。ラガルド総裁は7月の利上げ開始と9月までのマイナス金利脱却が可能だとする考えをブロ グで公表しており、ECBの早期利上げは急速にマーケットコンセンサス化しつつある。

米国物価のピークアウトを受けFRBが更なる利上げペース加速を求められる状況ではない一方、 ECBのタカ派傾斜は軟調推移していたEURUSDの底打ち反転の契機となりやすい。緩和姿勢を 続ける日銀との乖離も鮮明であり、マイナス金利が脱却が本格的に織り込まれれば、特に対JPYで の上昇圧力となりやすいであろう。

◎注意事項

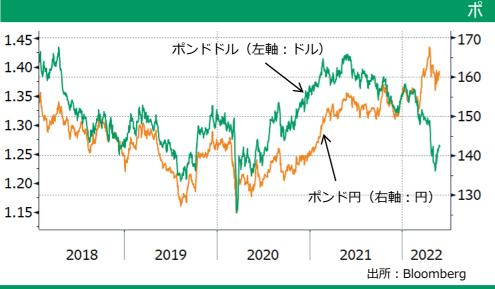
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

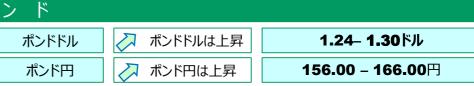
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、こ こに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でな されるようお願い致します。



ラッシュ<u>マンスリー</u> (2022年6月号)

(ポンド・豪ドル・NZドル) 今月の相場見通し② 為替



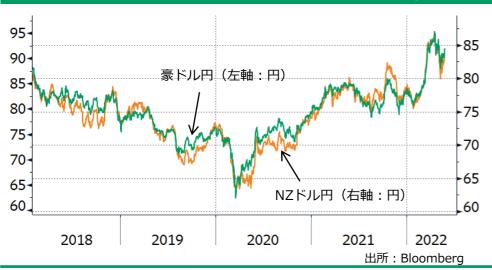


BOEのインフレ退治優先姿勢でポンドは堅調に推移

5月のポンドは対ドルで上昇、対円で下落となった。5/5のBOEで予想通り利上げが実施された が、予想外に景気後退への懸念も示されたことでポンドは急落。その後も利上げ中止観測からポ ンドは軟調に推移したが、BOEラムズテン副総裁が「インフレ対処のために、現在の政策金利が不 十分」と発言したことをきっかけにポンドは底をつけた。ベイリー総裁もインフレ対処優先姿勢を示し、 また中国・上海のロックダウン解除期待などからポンドは上昇に転じた。

5月のポンドは対ドル、対円で上昇を予想。景気後退のリスクが懸念されていたものの、英政府 が発表した総額150億の家計支援策や中国の経済活動再開などを考えると、先行きリセッション 懸念は後退すると考える。依然としてひっ迫している労働市場とピークアウトが見られないCPIを受 け、英中銀はタカ派姿勢を維持するだろう。足元でグローバル景気の後退懸念がやや一服してい ることも、リスク回避のドル買いの巻き戻しを通じてポンドドルを押し上げるドライバーとなるだろう。

ドル・NZドル



豪ドル円 豪ドル円は上昇 **89.00 - 94.00**円 ✓ NZドル円は上昇 NZドル円 **81.00 - 85.00**[™]

米中景気懸念後退でオセアニア通貨は対円で堅調に推移

5月の豪ドル円は上下に振れる展開。5/3のRBAで予想を上回る0.25%の利上げが実施さ れたことや堅調な経済指標を受け、豪ドル円は上昇。しかし、米中の経済減速懸念でコモディ ティ価格につれて下落に転じた。ただしRBA議事録での追加利上げ示唆や景気減速懸念の後 退から月末にかけて下落幅を縮小させた。NZドル円も世界景気先行きに対する一喜一憂で荒 い値動きが続いた一方、NZ中銀の利上げ継続姿勢はサポートとなった。

米経済減速への過度の懸念の後退や中国経済回復期待から、6月の豪ドル円とNZドル円は 上昇しやすいとみる。良好な経済状況とインフレ退治ための利上げ期待も両通貨のポジティブ材 料となる。また、米FRBの利上げ期待がインフレ懸念の一服とともに剝落しており、さらなるドル買 いの巻き戻しが豪ドル、NZドルの上昇材料となる。また、各国の食料禁輸措置の広がりやEUに よるロシア産原油禁止の可能性から資源国通貨の好地合いが続きやすい。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。





りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年6月号)

株式、長期金利 今月の相場見通し③

株式 見通し



日経平均

日経平均は下落

25,000 - 28,000円

海外景気減速懸念が高まるなか、中国ロックダウンと景気対策動向を見極め

5月の日経平均株価は引き続き27,000円を挟んで上値の重い展開となった。米国景気減速 懸念が高まり米国株価が軟調推移するなか、日本株も上値の重い展開が続いている。金融緩和 を継続する国内の景気は相対的に底堅いと見られるが、経済的な繋がりの強い中国の経済動向 による影響は受けやすい。ロックダウンの軽減や経済停滞に対する経済対策の規模等、今後の中 国の政策に対する見極めが一層重要な局面であろう。

NYダウ

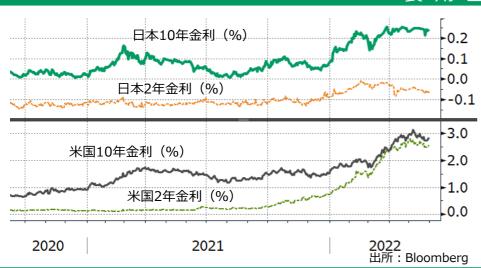
ダウは下落

30,000 - 34,000ドル

FRBの金融引き締め加速と景気減速懸念が株価の上値を押さえる

5月の米国株式市場は個別企業の決算内容に一喜一憂しつつも、全体としては上値の重い 展開が続いた。FRBの金融引き締めが継続し、景況感を中心に経済指標の下振れが目立つな かで景気減速懸念が急速に高まっており、株式市場の重石となりやすい。ウクライナ情勢も長期 化するなか、6月からはいよいよFRBのQT(量的引き締め)が開始されることも株価には下押し 圧力。景気減速を受けFRBの引き締め姿勢に変化が見られるまで上値は重いだろう。

利見通し 長期 金



日本国債10年

金利は低下

0.15 - 0.25%

日銀指値オペと海外金利上昇一服で金利上昇余地は限定的

日銀は5月以降も長期金利の上昇を抑制する「連続指値オペ」を継続しており、引き続き国内 長期金利の上昇余地は限られる。黒田日銀総裁が国会にて金融緩和の将来的な出口戦略に ついて言及する場面が見られたが、喫緊でのスタンス変化を示唆するものではなく、賃金上昇を伴 わない物価上昇に対しては粘り強く緩和を続ける姿勢を継続しよう。海外金利の上昇に一服感 が見られることも日本国債の買い安心感に繋がり、国内金利低下圧力として作用しよう。

米国債10年

金利は低下

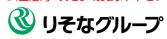
2.30 - 2.90%

市場の焦点はインフレ加速懸念から景気減速懸念へ

5月の米CPIは市場予想こそ上回ったものの、8か月ぶりに上昇率が前月比で低下。一方足 元では各地区連銀が公表している景況感指数の下振れが目立っており、市場の懸念はインフレ 動向から景気動向ヘシフトしつつある。FRBは7月FOMCまでの50bp利上げを事実上予告して いるが、その後(9月以降)のスタンスを巡って市場のコンセンサスは揺れている。利上げペースや 到達点に対する織り込みが後退すれば米長期金利には低下圧力がかかる。

◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。



<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2022年6月号)

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨(アジア)

		5/30	5	月の相場推移		6月の予想	解説
中	人民元/円	19.13	SI	18.71~19.62	a	18.80~19.70	5月のドル人民元相場は米国景気減速によるドル高で一時6.8台に乗せたが、 ドル高一服や中国の景気支援姿勢から上昇幅を大幅縮小。今月は上海の経 済活動再開や各主要都市の消費、生産に関する景気支援策を好感し、人民
中国	ドル/人民元	6.672		6.612~6.838	Ø	6.50~6.70	元は買い戻されやすいとみる。ただし、経済回復がまだ緩やかな段階で輸出産業をサポートしたい当局の意向も踏まえると、大幅な元高にはなりにくいだろう。
夕	バーツ/円	3.743	SI	3.673~3.816	Ø	3.50~3.85	5月のドルバーツ相場は中旬にかけ上昇したが、その後切り返し34バーツ台前半に切り下げ。米インフレ・引締め加速観測によるドル高の動きが巻き戻されたことが背景で、ドルの動きに概ね連動している。ただし先行きでは資源高によるインフ
イ	ドル/バーツ	34.08	\Rightarrow	34.02~34.78		33.5~35.0	レが進む一方で景気先行きへの懸念は残る。先行き本格的な観光再開はバー ツ高への転換ポイントとなりうるが、当面のバーツ相場は弱含みがメインとみている。
インドネシア	100ルピア/円	0.877	SI	0.862~0.907		0.850~0.900	5月のドルルピアは上昇(ルピア安)。月初から世界景気減速懸念でドル買いが進行し、ドルルピアは急騰。月末にかけては懸念が後退し同国のパーム油禁輸措置解除発表も材料となってルピアは買い戻された。今月はルピア高を予想。先
ネシア	ドル/ルピア	14,558		14,503~ 14,738	Ø	14,350~ 14,750	日インドネシア中銀は預金準備率の段階的な引き上げを発表、インフレ対応や資本流出対策としての利上げ観測からルピアは買われやすい状況だろう。
イン	ルピー/円	1.645	SI	1.629~1.709		1.62~1.66	5月のドルルピー相場は上昇(ルピー安)した。月初のインド中銀の緊急利上げを受けルピー買いの場面もあったが、インド株安や小麦禁輸措置が嫌気され、その後は大きく売られた。今月はルピーに買い戻しが入ると予想。インド中銀がイン
ド	ドル/ルピー	77.54		76.00~77.80	Ø	76.50~78.50	フレ対応のために今後数回利上げを行う意向を表明しており支えとなるだろう。インド株売りも一巡しており、海外からの資金流入も追い風となりやすい。
韓	100ウォン/円	10.302	SI	9.90~10.39	\Rightarrow	9.80~10.55	5月のウォン相場は対ドルではドル高主導で一時1,300ウォン/ドル手前までウォン安ドル高が進行。その後月末にかけてドル高巻き戻しとともにウォン買いも強まり、ドルウォン相場はレンジを切り下げた。対円レートは月末にかけ10,3台に急騰。
韓国	ドル/ウォン	1,239	\Rightarrow	1,236~1,291	\Rightarrow	1,220~1,280	高インフレ環境が続くなかで、韓国中銀は5月会合で0.25%の追加利上げを実施。今月のウォン相場は対ドルでもみ合いの展開を予想する。

◎注意事項



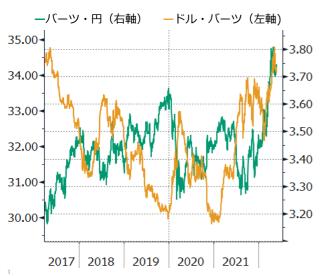
ラッシュマンスリー (2022年6月号)

新興国通貨チャート













お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。



<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> <u>&アジア・新興国FXフラッシュ</u> (2022年6月号)

年間為替見通し

			2022年		2023年	-1 º / > . ↓			
		6月	7~9月	10~12月	1~3月	ポイント			
ドル円	レンジ	122~132	115~135	110~130	108~128	急ピッチな金融正常化で年前半底堅く推移も、年後			
בועניו	期末値	128	125	120	118	半は景気減速と中間選挙の不透明感が上値抑える			
1-0	レンジ	1.04~1.14	1.00~1.20	1.12~1.25	1.10~1.25	米国景気減速懸念とFRBの正常化が一服するなか、			
ドル	期末値	1.08	1.13	1.18	1.16	ECBが正常化サイクルに入れば、EURの反転上昇を			
1 -0	レンジ	133~143	125~155	130~160	125~150	見込む。マイナス金利を継続する日銀との乖離も鮮明であり、対JPYでも上昇余地。			
円	期末値	138	141	142	137	7,7 (8) 5 (7,3) ((3.2) 1,3) (3.2)			
ポンド	レンジ	1.24~1.30	1.25~1.31	1.23~1.33	1.24~1.34				
ドル	期末値	1.28	1.29	1.26	1.30	英国のスタグフレーション懸念や北アイルランド問題がポンドの 重石となり年末にかけ上値が重くなると予想。材料出尽			
ポンド	レンジ	156~166	145~170	140~170	135~170	全台となり年末にかり工作が呈くなると予念。初春山巻くしとなれば来年にかけ買い戻しも期待。			
円	期末値	164	161	151	153				
ドル	レンジ	6.50~6.70	6.35~6.75	6.40~6.80	6.35~6.70	コロナ担制ニ卵オスレーロニナニロは買い高されて			
人民元	期末値	6.65	6.60	6.55	6.50	コロナ規制一服すると人民元も一旦は買い戻される とみるが、本格的な経済回復までレンジ内で推移。			
人民元	レンジ	18.8~19.7	17.4~20.4	17.0~19.0	17.2~19.0	22年後半から景気対策強化や経済回復で元は持ち直すと予想。			
円	期末値	19.2	18.9	18.3	18.2	≥ C J 150°			
豪ドル	レンジ	89.0~94.0	85.0~97.0	84.0~96.0	80.0~92.0	豪州も年央以降の利上げ意識され、日銀との金融政			
円	期末値	93.0	90.0	89.0	86.0	策格差で上昇も年後半はピークアウト。			
タイバー	レンジ	3.50~3.85	3.35~3.80	3.25~3.65	3.20~3.60	タイ景気先行きやインフレへの懸念も残る中、弱含			
ッ円	期末値	3.60	3.50	3.40	3.40	みとなりやすい。年後半にかけドル円に連れ安。			

◎注意事項



<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2022年6月号)

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
6/1(水)	1-3月期法人企業統計調查	5月ISM製造業景況指数	(中)5月製造業PMI
		米地区連銀経済報告	
6/2(木)	10年債入札	4月製造業受注	
		5月ADP雇用統計	
6/3(金)		5月ISM非製造業景況指数	
		5月雇用統計	
6/6(月)			
6/7(火)	30年債入札	3年債入札	(豪) 準備銀行理事会
	4月家計調査	4月貿易収支	
	4月毎月勤労統計(速報)		
6/8(水)	1-3月期GDP(二次速報値)	10年債入礼	(中)5月貿易統計
	5月景気ウォッチャー調査		
6/9(木)		30年債入札	(欧)ECB定例理事会
6/10(金)	5月企業物価指数	5月CPI	(中)5月CPI

	日本	米国	その他
6/13(月)			
6/14(火)		5月PPI	(独)6月ZEW景気指数
6/15(水)	4月機械受注	5月小売売上高 6月NY連銀製造業景気指数 FOMC(結果発表)	(中)5月生産・小売・投資
6/16(木)	5月貿易統計	5月住宅着工・許可件数 6月フィラデルフィア連銀製造業 景気指数	(英)BOE金融政策委員会
6/17(金)	黑田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合(結果発表)		
6/20(月)			
6/21(火)	5年債入札	5月中古住宅販売	
6/22(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (4/27~28開催分)	20年債入札	
6/23(木)	20年債入札		(欧)6月PMI(速報値)
6/24(金)	5月消費者物価指数	5月新築住宅販売	(独)6月IFO企業景況感指
6/27(月)		2年債入札 5年債入札	
6/28(火)	2年債入札	6月消費者信頼感指数 7年債入札	
6/29(水)		1-3月期GDP(確定値)	
6/30(木)	5月鉱工業生産 5月住宅着工件数	5月個人所得・消費支出	(中) 6月PMI



<u>りそな マーケットフラッシュマンスリー</u> &アジア・新興国FXフラッシュ (2022年6月号)

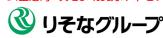
中国主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2021/6	2021/7	2021/8	2021/9	2021/10	2021/11	2021/12	2022/1	2022/2	2022/3	2022/4
実質GDP成長率	%	7.9	-	-	4.9	-	-	4.0	-	-	4.8	-
消費者物価上昇率	%	1.1	1.0	0.8	0.7	1.5	2.3	1.5	0.9	0.9	1.5	2.1
都市部調査失業率	%	5.0	5.1	5.1	4.9	4.9	5.0	5.1	5.3	5.5	5.8	6.1
輸出額	10億ドル	281.0	282.3	294.0	305.3	299.6	324.8	340.3	327.2	217.5	276.0	273.6
輸入額	10億ドル	230.9	226.4	234.8	237.2	214.7	253.0	246.2	242.6	187.3	228.9	222.5
経常収支	100万ドル	116,375	-	-	198,934	-	-	317,301	-	-	89,500	-
外貨準備高	10億ドル	3,214.0	3,235.9	3,232.1	3,200.6	3,217.6	3,222.4	3,250.2	3,221.6	3,213.8	3,188.0	3,119.7
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.43	6.48	6.48	6.46	6.41	6.39	6.37	6.36	6.34	6.35	6.44
※ 対ドル為替レート:	期末又は月末	値 主要政	策金利:1年	物貸出基準金	 試利	•	•		•	•	出所:E	Bloomberg

※今号の「中国の景気動向」「上海からティータイム」は上海ロックダウンの影響でお休みとなります。





ラッシュマンスリー (2022年6月号)

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

- ◆タイ中央銀行が発表した2022年3月の経済報告によれば、タイ経済はやや鈍化した。新 型コロナウイルス感染症や生産コストの上昇、物価上昇等が挙げられた。民間消費指数は 前年同月比0.5%上昇。耐久財消費材と半耐久消費財はいずれも0.2%上昇したが、非耐久 消費財は5.0%下落した。一方、外国人旅行者の増加を受け、旅行者の支出が4.1倍となっ た。民間投資指数は同1.9%上昇した。建設資材の販売と機械・設備を中心とした資本財の 輸入は減少した。鉱工業生産指数は同0.1%下落した。公共支出も前年同月に対し縮小した。
- ◆タイ商務省によると、2022年3月の輸出額は前年同月比19.5%増の288億5,960万米ド ルと、2カ月連続で2桁の伸び率となった。農産物・加工品の輸出は前年同月比14.2%、工 業製品は同20.6%とそれぞれ増加した。コンピューター・同部品、電子集積回路が伸びた が、自動車・同部品は減少。国別では、米国向けが最多(前年同月比21.5%増)。他に、 中国(同3.2%増)、日本(同1.0%増)、東南アジア諸国連合(ASEAN)9カ国(同 19.0%増)。4月の輸入額は同18.0%増の274億60万米ドルで、貿易収支は14億5.910万

- 米ドルの黒字となった。2022年1~3月の輸出額は前年同期比14.9%増の736億140万米ド ルだった。一方、3月の対米ドル・バーツ相場は平均で1米ドル=33,25バーツで、前月の 32.65バーツからバーツ安となった。
- ◆夕イ商務省が発表した4月の一般消費者物価指数(CPI)は、前年同月比4.65%上昇した。 タイ政府が固定していた調理用液化石油ガス (LPG)価格を段階的に引き上げていること等 から、大半の品目は値上がりした。食品・飲料が同4.83%上昇、非食品が同4.54%上昇。 今年1~4月CPI平均値は前年同期比4.71% 上昇。
- ◆米格付け会社ムーデイーズ・インベスターズ・サービスは7日、タイの信用格付けを 「Baa1」、見通しを「安定的」に据え置いた。タイの多様な経済活動、効果的な政策等が 挙げられた。2022年の経済成長率(GDP)予測を3.4%とした。

主要経済指標

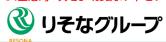
く月次データン

項目	単位	2021/6	2021/7	2021/8	2021/9	2021/10	2021/11	2021/12	2022/1	2022/2	2022/3	2022/4
実質GDP成長率	%	7.7	-	-	-0.2	-	-	1.8	-	-	2.2	-
消費者物価上昇率	%	1.3	0.5	-0.0	1.7	2.4	2.7	2.2	3.2	5.3	5.7	4.7
失業率	%	1.9	1.9	1.9	2.3	2.3	2.3	1.6	1.6	1.6	1.6	-
輸出額	100万ドル	23,703	22,651	21,976	23,036	22,739	23,648	24,930	21,259	-	-	-
輸入額	100万ドル	22,551	22,467	23,192	22,426	23,109	22,629	25,284	23,785	23,360	27,401	-
経常収支	100万ドル	-818	-1,590	-2,731	-812	-478	380	-1,611	-2,204	-652	1,245	-
外貨準備高	10億ドル	246.5	248.0	252.0	244.7	246.1	243.0	246.0	242.8	245.1	242.4	228.6
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	バーツ	31.5	32.6	33.1	33.1	33.5	33.1	33.6	33.2	32.7	33.3	33.8
※ 対ドル為替レート	: 期末又は月末	値 主要政	 策金利:タイ	/翌日物レポタ	 金利						出所:E	Bloomberg

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、<u>弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。</u>また、こ こに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でな されるようお願い致します。



ラッシュマンスリー (2022年6月号)

タイにおける自動車産業の動向

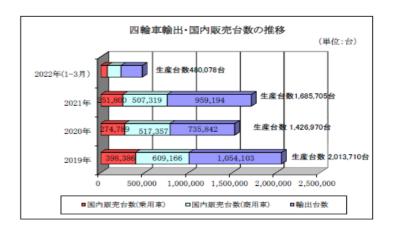
りそな銀行バンコック駐在員事務所

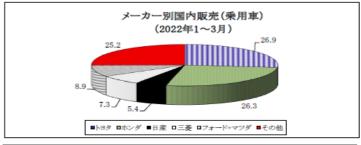
タイにおける自動車産業の動向

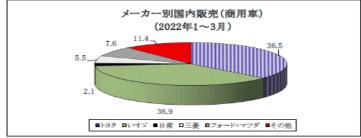
3所:タイ工業連盟(FTI))
----------------	---

出所:ダイ工業連盟									
			2019年	2020年	2021年	2022年	前年同期比	3月	
						(1-3月)	(96)		
【台數】 (台)									
四輪	生産台数	栗用車	804,340	542,437	599,844	136,464	80.4	49,331	
		商用車	1,209,370	884,533	1,085,861	343,614	116.0	123,340	
		合計	2,013,710	1,426,970	1,685,705	480,078	103.1	172,671	
	国内販売台数	乗用車	398,386	274,789	251,800	75,726	116.0	29,771	
		商用車	609,166	517,357	507,319	155,463	120.6	57,474	
		合計	1,007,552	792,146	759,119	231,189	119.1	87,245	
輸出台数		1,054,103	735,842	959,194	243,124	94.2	93,840		
二輪	生産台数		1,948,480	1,615,319	1,780,654	489,238	94.7	178,471	
	国内販売台数		1,718,587	1,516,096	1,606,481	448,147	102.9	153,928	
	輸出台数		948,839	727,152	965,967	266,098	98.7	89,051	
【完成車輸出金額】 (百万パーツ)									
四輪			545,968	410,912	561,147	144,165	100.9	55,853	
二輪			69,933	85,802	75,985	18,492	74.9	5,752	

【メールー別は									Щ <i>В</i>] : Ге	ジ目期単	
		2019年	シェア	2020年	シェア	2021年	シェア	2022年	前年同期比	シェア	3月
			(96)		(96)		(96)	(1-3月)	(%)	(%)	
トヨタ	乗用車	117,708	29.5	68,152	24.8	62,403	24.8	20,336	140.2	26.9	8,795
	商用車	214,672	35.2	176,164	34.1	177,320	35.0	56,808	137.1	36.5	21,202
	合計	332,380	33.0	244,316	30.8	239,723	31.6	77,144	137.9	33.4	29,997
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	168,215	27.6	181,194	35.0	184,160	36.3	57,420	116.6	36.9	21,801
	合計	168,215	16.7	181,194	22.9	184,160	24.3	57,420	116.6	24.8	21,801
ホンダ	乗用車	96,154	24.1	77,419	28.2	76,886	30.5	19,896	93.2	26.3	8,326
	商用車	29,679	4.9	15,622	3.0	11,806	2.3	5,728	158.6	3.7	1,683
	合計	125,833	12.5	93,041	11.7	88,692	11.7	25,624	102.7	11.1	10,009
日産	乗用車	35,809	9.0	27,120	9.9	19,790	7.9	4,102	68.4	5.4	1,159
	商用車	28,605	4.7	17,438	3.4	9,906	2.0	3,267	127.6	2.1	1,318
	合計	64,414	6.4	44,558	5.6	29,696	3.9	7,369	86.1	3.2	2,477
三菱	乗用車	38,879	9.8	22,363	8.1	18,456	7.3	5,508	117.3	7.3	1,779
	商用車	49,365	8.1	35,046	6.8	28,732	5.7	8,567	16.0	5.5	2,858
	合計	88,244	8.8	57,409	7.2	47,188	6.2	14,075	116.5	6.1	4,637
その他	乗用車	109,836	27.6	79,735	29.0	74,265	29.5	25,884	138.4	34.1	9,712
	商用車	118,630	19.5	91,893	17.7	95,395	18.7	23,673	96.0	15.3	8,612
	合計	228,466	22.7	171,628	21.8	169,660	22.3	49,557	114.3	21.4	18,324
승計 -	乗用車	398,386	100.0	274,789	100.0	251,800	100.0	75,726	116.0	100.0	29,771
	商用車	609,166	100.0	517,357	100.0	507,319	100.0	155,463	120.6	100.0	57,474
	合計	1,007,552	100.0	792,146	100.0	759,119	100.0	231,189	119.1	100.0	87,245







◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、<u>弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。</u>また、こ こに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でな されるようお願い致します。